

天領医療連携だより

Ohmuta Tenryo Hospital 2016.2



【講義内容報告】

専門学校 柳川リハビリテーション学院

平成27年12月11日

■老年学についての講義 理学療法士 平山史朗

「呼吸器疾患を伴う高齢者の理学療法・作業療法」

呼吸器疾患を有する高齢者の病態や特徴について説明し、療法士の立場から病状や生活環境に応じた取り組み方について講義した。

専門学校 柳川リハビリテーション学院

平成27年12月18日

■老年学についての講義 理学療法士 山田博文

「老年医学～循環器疾患～」

理学療法学科・作業療法学科一年生に対して、循環器疾患の基礎的な概要から臨床での注意事項までを含めた内容を、高齢者に特徴的なものを中心に、講義した。

◎「予約センター」の移動と「総合相談・支援センター」の開設

平成28年1月12日より、「予約センター」が正面玄関左側に移動しました。それに伴い、旧予約センターのスペースが、「総合相談・支援センター」となり三つの相談ブースを設置いたしました。

今後は、患者相談の場所として活用します。



◎医療理念の追加

平成28年1月1日より、福岡県社会保険医療協会の医療理念の五番目に「経営の安定と職員満足度の向上」が追加されました。これにより、医療理念が五つ、基本方針が四つとなりました。



編集後記

まだまだ寒い日が続きますが、2月4日は立春でそろそろ春の訪れを感じたい今日この頃。そんな中、実家から掘りたてのたけのこをいただきました。たけのこは早速、夕食の1品に。やっぱりいつも作るのは筍の煮物。鮮度がいいものはシンプルな料理が一番です。春の味覚を代表する食材としても筍は有名ですが、旬は4～5月だといわれています。その時期に一番おいしく栄養価も高い旬の食材は新しい季節の訪れを感じることもできます。みなさんも旬の食材で春を感じてみてくださいね。



【ペンネーム R&K】

□交通アクセス

- JR鹿児島本線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 西鉄天神大牟田線大牟田駅下車・・・徒歩20分
- 九州自動車道南関ICより自動車・・・25分
- 西鉄バス大牟田駅前バス停乗車
天領校前下車(行先番号2番)・・・下車徒歩3分
天領町1丁目下車(行先番号4番)・・・下車徒歩0分



□診療受付時間

月曜～金曜日 / 8:30～11:30 (診療開始 8:45～)
13:00～16:30 (診療開始 14:00～)
土曜日 / 8:30～11:00 (診療開始 8:45～)

□休診日

日曜日、祝祭日、年末年始(12/30～1/3)

□面会時間

平日・土日祝祭日 10時～20時まで



当院に対してご希望やご意見がございましたら職員にお気軽にお申し付けください。また、ご意見箱も是非ご利用ください。

一般財団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 大牟田天領病院

〒836-8566 福岡県大牟田市天領町1丁目100番地
TEL 0944-54-8482 FAX 0944-52-2351
電子メール: somu@omutatenryo-hp.jp ホームページ: http://omutatenryo-hp.jp/

■医療理念

- 一、患者中心の医療
- 二、医療の質の向上
- 三、地域社会にあった手づくりの医療
- 四、安心と信頼を持たれる病院づくり
- 五、経営の安定と職員満足度の向上

■基本方針

- 一、地域の病院、診療所および介護施設と連携し、急性期医療を担当する中核病院として地域医療に貢献する。
- 二、患者さんに安心とくつろぎを与える医療と介護を提供する。
- 三、医療水準向上のため職員の教育および臨床研修を充実する。
- 四、経営基盤を安定させる。

◎神経内科の取り組み | News

当科は、脳梗塞、てんかん、髄膜炎、ギランバレー症候群などの神経救急疾患、めまい、頭痛(片頭痛)、パーキンソン病や神経変性疾患などさまざまな疾患を診療しています。

急性脳卒中など緊急性のある疾患については、CT・MRI・超音波検査など対応可能です。24時間対応しておりますので神経内科(時間外であれば当直医)にご連絡いただくと速やかに対応させていただきます。特に発症から4時間30分以内の脳梗塞に関しては、t-PA療法を念頭に治療を行っていきます。

当院の特徴としては、急性期～回復期病棟～自宅退院まで一貫して治療継続が可能であることです。リハビリテーションも充実しており、入院後から理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による早期リハビリが可能となっています。失語症などの高次脳機能障害を有する症例なども回復期病棟で時間をかけリハビリを行っています。

リハビリスタッフ、栄養士、ソーシャルワーカー、介護福祉士とともに定期的に回診を行っています。嚥下障害・栄養障害がある症例も多く、言語聴覚士・栄養士と情報共有し安全な経口摂取、栄養状態改善に取り組んでいます。ソーシャルワーカーを含めた多職種で、自宅退院へ向けたサポートを行っています。

外来では、歩きにくい、ふらふらする、めまい・頭痛がする、物忘れ、しびれがある、などの症状を診察治療しています。先生方が日々診察の中で歩行障害や認知症など気になる症状がありました場合は、ご紹介いたしますと幸いです。最近は認知症の紹介受診も増えてきております。神経診察～MRI、脳血流シンチ等での検査が可能です。正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫、また甲状腺機能低下症など治療可能な認知症もありますので、神経内科での精査は有用と考えます。

また、片頭痛の症例も多く経験しております。鎮痛薬を頻回に飲む必要がある患者様などは、薬物乱用型頭痛に移行している可能性もあります。再発予防を十分に行うこと、また適切な片頭痛発作時の治療が必要になります。頭痛に悩まれている方がおられましたらご紹介ください。

大牟田・荒尾地区を中心とした医療圏において、先生方と連携をとりながら、神経内科医として貢献していきたいと考えております。今後ともご指導・ご助言のほどよろしくお願いいたします。



神経病総合医療センター所長
荒木 淑郎
・日本神経学会専門医、指導医
・日本内科学会認定医



神経内科部長
岡本 定久

・日本神経学会専門医、指導医
・総合内科専門医・日本救急学会専門医
・日本脳卒中学会専門医



神経内科医長
石原 大二郎

・日本内科学会認定医

◎第13回社会保険大牟田天領病院院内学術集会を開催

11月28日(土)、118名の職員及び院外からの参加があり、盛況のうちに終了する事が出来ました。プログラムは、以下の通りです(一部省略しています)。

□一般演題

- ① 脊椎圧迫骨折における仮コルセットの影響： [リハビリテーション科 市川裕貴 他]
- ② 人工膝関節全置換術患者におけるリハビリテーションの満足度調査： [リハビリテーション科 花岡恭平 他]
- ③ 当院における過去5年間の血液培養の解析状況： [細菌検査室 大野忠 他]
- ④ 院外処方箋への検査値表記による照会の変化： [薬剤部 山津朋弘]
- ⑤ 患者参加型の誤認防止への取り組み： [外来 武田百香利 他]
- ⑥ 腎センターにおけるフットケアの取り組み： [腎センター 田中康友 他]
- ⑦ 術前排便管理に対するスタッフの意識調査～排便ツール導入に向けて～： [南2階病棟 森田奈美 他]
- ⑧ 遊びリテーションの効果～意欲向上に向けて～： [6病棟 高山大輝 他]
- ⑨ 関節リウマチ治療中にMTX関連リンパ増殖性肺疾患を発症した一例： [呼吸器科 小佐井幸代 他]
- ⑩ 子宮頸がん検診の有効性、乳がんのMMG検診との比較～医学論文からの考察～： [婦人科 吉田耕治]
- ⑪ 内側楔状開大式高位脛骨骨切り術における膝蓋骨低位を起ささない工夫： [整形外科 堀川朝広 他]
- ⑫ 骨形成促進剤テリパラチドの骨代謝と腫骨骨量への影響： [整形外科 堀川朝広]
- ⑬ 内側半月板水平断裂に対して半月板縫合術と脛骨外骨切りを施行した症例： [整形外科 原慎太郎 他]



学術集会の様子



学術集会の様子

□特別講演

演題 「がん免疫療法について」

講師 国立研究開発法人国立がん研究センター 先端開発医療センター 免疫療法開発分野 分野長 中面哲也 先生

◎「がんのリハビリテーション開設」準備のお知らせ

当院では、がん患者さんに対するリハビリテーション開設の為、以前より積極的に取り組み、準備してまいりました。そして平成27年12月5日、久留米大学病院にて行われた「筑後地区がんのリハビリテーション研修会」へ参加いたしました。

近年、がん患者さんは年々増え続け、現在2人に1人はがんで発症すると言われています。がん治療の進歩により、がんに罹患しても治療する人やがんと共存され生活を営まれている方が多数いらっしゃいます。

この状況の中でがんのリハビリテーションは、患者さんに対して、医師の指導監督の下、適切な研修を修了した理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が実施するリハビリテーションです。今回、私たちも指定の研修を受講し、より良いリハビリテーションを提供できる準備が整いました。患者さんは、がんの進行や治療過程で心身へのさまざまな機能障害が生じ、それらに伴って、日常生活や仕事を制限されてしまいます。がんのリハビリテーションでは、これらの機能障害をできる限り予防し、出現した機能障害の回復を図り、生活能力の向上と仕事復帰や余暇活動への参加を導いていくことを目的としています。

当院の「がんのリハビリテーション」は、平成28年4月1日より開始致します。担当スタッフ一同連携し合い、患者さんに寄り添い支援してまいります。

【担当スタッフ】 医師：柴田雄司、看護師：野中伸子、理学療法士：今村健二、佐藤那稚、作業療法士：鳥巢喜美子、松葉幸典



スタッフ



修了証

学会発表・講演など

■【学会発表報告】

◎第31回 日本義肢装具学会学術大会

[平成27年11月7日・8日 パシフィコ横浜]

■一般演題：口述発表 理学療法士 平山史朗

「脳卒中片麻痺患者における測定条件による背屈補助力の相違について
—計測用短下肢装具を用いて—」

脳卒中片麻痺患者において歩行中、引きずり防止に必要な背屈補助力を我々が考案した計測用短下肢装具を用いて歩行中(動的)と静的条件下での背屈補助力の相違を調査して、動的条件下で計測する意義について報告した。

■一般演題：口述発表 理学療法士 島袋公史

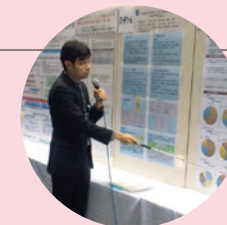
「脳卒中発症早期に用いる即席股装具の作製経験」

脳卒中発症早期から病態や身体に合わせた装具を提供し、起立・歩行訓練を行う事は重要なことであると考え、そこで股関節で制御する装具である即席股関節装具の作製経験と症例報告を行った。

一般演題：ポスター発表 理学療法士 今村健二

「脳卒中の病態と処方しているシューホーン型AFOのデザインについて」

第30回日本義肢装具学会学術大会にて報告した全国アンケート調査結果(脳卒中に対するシューホーンAFOのデザイン、適応について)と、当院と協力病院の装具処方の実際について、比較や内容の検討を行った。



◎九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015 in 大分

[平成27年11月14日・15日 別府国際コンベンションセンター]

一般演題：ポスター発表 理学療法士 平山史朗

「ARDS後に四肢の弛緩性麻痺を呈した症例の経験」

急性呼吸促進症候群(ARDS)発症後に四肢の弛緩性麻痺を呈した症例を経験したので病状の変化に応じたリハビリテーションの実施内容を紹介し、病態についての考察も交えて報告した。

一般演題：ポスター発表 理学療法士 嶋村剛史

「加速度センサを用いた立ち上がり動作分析の有用性
—三次元動作装置との比較検討—」

速度センサを用いた歩行分析の有用性が報告されているが、立ち上がり動作に関する報告は少ない。そこで加速度センサを用いた立ち上がり動作分析の三軸上での有用性比較検討し、報告した。

一般演題：ポスター発表 理学療法士 島袋公史

「下肢装具の再検討を試みたポストポリオの一例」

ポストポリオでは、特に著名な下肢筋力低下、関節痛及び変形に対して下肢装具を使用することが多いとされる。今回、膝蓋骨折を契機に、同側の下肢装具再検討を試みた症例経験を報告した。

